

地球の表面を覆う大気圏は、「人間社会を保護する"overcoat"」である

2013-11-25

読身書

時が過ぎるのは実に速いもので、この2013年は、もう既に11月下旬を迎えています。現在の時刻は、午前2:55分。私は今、バルコニーに繋がる窓をすべて開け、外気の新鮮な空気を吸いながら筆を執っています。思うに、11月下旬のこの寒い時期において、夜中に窓を全開にして仕事をしている人はまずいないでしょう。しかし、私にとっては、「窓を開け、外気を全身で浴び続け、夜空を眺めながら一秒一秒を刻む」という時間の過ごし方には深い意味があります。

99%の人は
無知
いるX

夜空を眺めながら心の中で一秒一秒を刻むと、「今現在、自分は一体どこにいるのか」という事実について盲目にならずにすみませう。「今、自分はどこにいる? ...、住所で言うと東京都中央区?」...。無論、本稿において私が述べたいことは、そのようなローカルな捉え方ではなく、1)「広大な宇宙に浮かぶ数々の星の中の"一つの小さな星"にいる」、言い換えれば、2)「地球に存する一個の個人として、しっかりと地球の表面に根を下ろして存在している」という"鮮明極まりない"事実です。

99%の人は
読身書に
おいてない!

すべての人間は、所謂、「考える能力」、即ち、「理性」(reason)を備えています。私たち人間は、日々、この「理性」を使って様々な事物・問題について考え、妥当な判断をし、行動しています。しかし、一体どれほどの人間が、この理性を介して「自分の居場所(立ち位置)」についてしっかりと捉え、このことについて十分な認識に至っているのでしょうか。「人間は、広大な宇宙空間に浮かぶ一個の惑星の中で生息している」、...この「鮮明極まりない」事実について以下のように捉えると、「人間に賦与された一秒一秒」の価値・重さ・意味についてさらにしっかりと認識することができます。

事実

- 1) 人間は、宇宙に浮かぶ一個の惑星の中に生息している
- 2) 人間は、地球という惑星の"大気圏内"に生息している
- 3) 大気圏は、「人間社会を保護する"overcoat"」である

本当に
civilized?

大気圏(the atmosphere)とは、言うまでもなく、地球の周りを囲む気体の総体を指し、体積で述べると、空気の5分の4を占める窒素(nitrogen)、空気の5分の1を占める酸素(oxygen)、その他、微量ではあるが、水素、アルゴン、二酸化炭素、オゾン、ヘリウム等を含んでいます。体積としての空気の比率は、窒素4(78.10%)・酸素1(20.93%)の割合。この比率は、地上から高度80km付近までほとんど変わりません。言うまでもなく、大気圏は、太陽の放射線から地球上の植物・生物を守り、同時に、地球表面の温度を(植物・生物等にとって)「適切温度」にする役割を果たしています。私たち人間において最も重要な認識事項の一つは、一事が万事において、「人間はこの大気圏の中に生息している」という"周知の事実"です。この「大気圏の中に生息している」とは、言葉を換えると、「人間という動物は、『"overcoat"』としての大気圏(the atmosphere)』という保護圏域において、理性的存在者として、「自らの意思で"一秒一秒呼吸している"」ということです。

本当の
civilization

とは?

You are a
slightest
bit

宇宙空間における「地球存在」、そして、「人間存在」について以上のような捉え方を思索の基礎とし、今再び、「人間に賦与された理性」(reason given)について捉え直してみると、「人間存在」という客観的事実に内在する本質」を認識するための道程を歩むことができます。そもそも、「学問は、一体何のために存在するのか」、「学問は、いかなる方向性に向けて行われるべきなのか」、...これらの本質的問題は、西洋・東洋を問わず、理性的存在者として学問を行う研究者においては必須の問題であると明言できます。

「地球の表面を覆う大気圏は、『人間社会を保護する"overcoat"』である」、この事実を逆に解釈すると、「人間は、大気圏の外に出ると、即ち、広大な宇宙空間に出てしまうと、"微生物"(microbe)ほどの力も発揮できない」という現実が見えてきます。「人間は、単なる微生物ではない」、人間は、このことを理性的思索を介して捉え直すことができたときに初めて、真の意味で、「理性の意味」(the meaning of reason)、そして、「理性の使い方」(the rational way to use reason given by God)について"腹"で理解することができるのだと私は考えます。

英語音声講義

本稿・銀座書齋エッセーを精読し、心を静め、静寂の中で以下の2つの英語音声講義を身を挺して聴くことにより、「理性の捉え方」についてより深く認識・理解することができるようになります。また、同時に、これらの学習経験によって、「学問とは、一体何のためにあるのか」という問題について価値ある思索をすることができるでしょう。

- ⇒ 英語音声講義 I
- ⇒ 英語音声講義 II

<銀座書齋エッセー>

地球の表面を覆う大気圏は、「人間社会を保護する "overcoat"」である

(2013. 11. 25)

2013年11月下旬 AM 2:55

先生は、バルコニーに繋がる窓をおべて開けて、
外気の新鮮な空気を吸いながら筆を執る。

窓を開け、外気を全身で浴び続け、夜空を眺めながら一秒一秒を刻む

↓
今現在、自分は一体どこにいるのか

この事実について盲目にならずにすむ。

1) 広大な宇宙に浮かぶ数々の星の中の "一つの小さな星" にいる

↓ 言い換えると

2) 地球に存する一個の個人として、しっかりと地球の表面に
根を下ろして存在している

↓
"鮮明極まりない" 事実である。

すべての人間は「理性」(reason)を備えている。

↳ この「理性」を使って、
様々な事物・問題について考え、
適切な判断をし、行動している。

しかし、一体どれほどの人間が、この理性を介して

「自分の居場所(立ち位置)」について、しっかりと捉え、

このことについて 十分な認識に至っているだろうか？

事実

人間は、広大な宇宙空間に浮かぶ一個の惑星の中で生息している

- 1) 人間は、宇宙に浮かぶ一個の惑星の中に生息している
- 2) 人間は、地球という惑星の“大気圏内”に生息している
- 3) 大気圏は、「人間社会を保護する“overcoat”」である

⇒ この“鮮明極まりない”事実について、このろつを捉えれば、

「人間に賦与された「一秒一秒」の価値・重さ・意味についてさらにしっかりと認識することができる。

大気圏 (the atmosphere)

↓
地球の周りを囲む気体の総体。

体積 (空気の5分4 → 窒素 (nitrogen), 5分1 → 酸素 (Oxygen),
微量で、水素、アルゴン、二酸化炭素、オゾン、ヘリウムを含む。

窒素 4 (78.10%) ・ 酸素 1 (20.93%) の割合。

↓
これは、地上から 高度 80 km 付近まで “ほとんど” 変わらない。

大気圏は、太陽の放射線から地球上の植物・生物を守り、
同時に、地球表面の温度を (植物・生物等にとって)
“適切温度” にする役割を果たしている

私たち人間の 最も重要な認識事項の一つ

↓
「人間はこの大気圏の中に生息している」 “固知の事実”

↓
人間という動物は、『“overcoat” としての大気圏 (the atmosphere)』
という保護圏域において、理性的存在者として、“自らの意思で”
一秒一秒呼吸している

宇宙空間における「地球存在」・「人間存在」

↳ 先の捉え方を 思索の基盤として、

今再び、「人間に付与された理性」(reason given) について捉え直してみる



人間存在、という客観的事実に内在する本質

を認識するための道程を歩むことが出来る。

そもそも、「学問は一体何のために存在するの？」

「学問は、いかなる方向に向けて行われるべきなの？」



西洋・東洋を問わず、理性的存在者として
学問を行う研究者において 必須の問題！

「地球の表面を覆う大気圏は、『人間社会を保護する "overcoat"』である」



逆に解釈すると、

人間は大気圏の外に出ると、
即ち、広大な宇宙空間に出てしまうと、
"微生物" (microbe) ほどの力を発揮できない

現実

人間は単なる微生物
ではない。

これについて 理性的思索を介して捉え直すことができたとき初めて、
真の意味で「理性の意味」(the meaning of reason)、

「理性の使い方」(the rational way to use reason given by God)

について 再度理解することが出来る。

Then, we are here to think about reason. Why we have thinking ability? ①

理性について考えるため、我々はここにいます。
なぜ、考える力があつたのか。

Your life was given. It is not a thing you got just by yourself.

自分の生は、付与されたのである。
自分自身が自ら得たのではない。

It doesn't mean you have discretion to decide you get your life,
you get your new life. Your life was given.

自分で、自分の生を掴もうと決定できるのではない。
自分の生は付与されたのである。

And, so the matter of importance is that how you interpret your life,
how you think about like why you have your life given.

重要なことは、自分の生をどう考えるか である。

なぜ生が付与されたのかを 考えること である。

How you take advantage of your life more passively.

受け身の生を どのようにして活かすのか。

Then, what you need. Then I think I wrote here that why we have a reason.
We do not possess our reason inherently. We have our reason given from
somewhere.

すべきこと。私たちが理性を何故もっているのか。
自分たちの理性を生まれつき得ているのではない。
どこから 私たちに理性が付与されたのか。

How do we need to see the reason given. This is not the reason we got by
ourselves. This is the reason given.

この付与された理性をどのようにして見る、捉えるべきなのか。

自分たち自ら得た理性なのではないのか。これは、付与された理性なのだ。

We can find some answer out of the given possession. This is the possession given.
So we got to use this reason to make a sense to live well every day.

私たちがその答えを、その付与された物を利用して考え、見つけるのだ。
これは付与されたものなのだ。

私たちが、日々、善く生きるための感性を磨くために、この理性を
使わなくてはならないのだ。

You have your life given. To make a sense to live well every day, you have your privilege to use your reason given by God.

自分は付与された生を持っているから、毎日善く生きるために、神から付与された理性を使うという特権をもっているからである。

Why we have thinking ability ?



生をどう考えるのか、解釈するのか。

自分の意志で掴んだものではない = 受け身として付与されたもの

どこからか!!



それが神から付与されたものであるということ。

< 問い >

なぜ生が賦与されたのか。
自分の生をどう解釈するのか。
受け身の生をどう解釈し、使うのか。



これを、賦与された思考する力を使って考える。

日々考える ↓

自由に考えることができる、
賦与された特権。



何を考えるのか？

善・悪

善く生きるためには？

自分にすべきこと。

人類の一人としてすべきこと。

何が善で悪なのか、を見わける。

It's more important that to live well is more important than just making some accomplishment.

善く生きることというのは、何かの成果を出すということよりも
すなわち重要なことである。

If you study for the sake of getting nice result, then, you maybe disapoint
It's not a way to pursue the essence.

良い結果を求めて勉強すると、失望することはある。
それは、本質を追求する方法ではない。



You don't expect anything. Without expecting anything, then, you try to do
your best to challenge.

何も期待をせず、何も予期をせず、自分の課題に対して
最善を尽くそうと、全力を出す。

What you need to pursue such a process is very important for you to enjoy.
You do enjoy such a pursued of truth in a process and surely I think
process by process you enjoy your pursuing.

そうしてプロセスがとて大印。

一つ一つのプロセスを丁寧に。

プロセスにおいて、真理を追求することを楽しむ。

プロセス一つ一つ、追求を楽しむ。

It is a travel. You knock the door. You knock at the door, and you need to enjoy
such a journey. It is a rational journey to pursue the essence of the thing.

扉をノックする。これは旅である。

旅を楽しむ必要がある、それは、物事の本質を追求する理性的な旅である。

Do I have a different way to do so? No, I think I'm going to the same
direction. There is no big different between you and me. I'm just a trifle.

私は違う道があるのか？ いいえ、私も同じ方向へすすんでいる。

あなたと私の間には差異はない。私は単なる小さなものである。

I feel like, until the last time, I breathe my breath, I feel like I continue
being a student.

最期のときまで、自分の呼吸をある最期のときまで、生徒でい続ける。

Surely, I'm a student in front of the sciences.

私は、学問の面前において、確かに生徒なのである。

Actually I do not pursue anything essential. Still, I question myself. I question a lot of things. I'm not sure a lot of things.

実際のところ、何も本質を追求していない。

今もなお、自分に問う。たくさん問う。多くのことが命かっている。

Doing so, day by day, night by night, I question myself, then, do I see some right somewhere? I do not see still anything. In front of me, all the time, I'm swimming, flying in the darkness. It is dark enough to swim and fly. But I shall continue walking around. I'm not going to be walking around. I am going to make a sense to go forward all the time in the darkness.

問いつながら、一日一日、毎日毎日、自分自身に問う。

そして、どこかに光を見るのか？ まだに何も見えていない。

私の面前には、常に。暗闇の中を泳ぎ、飛んでいる。

泳ぎ、飛びにはとても暗い。でも、私は、歩き続ける。止まらない。

常に、前に進む感性を作っている。暗闇の中で。

暗闇の中がくると感性を創ることはできる。

Then I can make a sense like he saying here how to live well, how to live well you got to adventure upon what you need to do. This is very important rather than making some sort of local accomplishment.

そして感性を作ることはできるのだ。

彼の言うように、善く生きる方法、自分に必要なことをやるために必要な冒険を行い、善く生きる。これがとても重要である。

ローカルの成果を出すというよりも。

Academically speaking, it is a local accomplishment.

There is no universal accomplishment.

学術的にいうと、それはローカルの成果であり、

普遍的な成果はないのだ。

Professors are satisfied, scholars are satisfied with achieving something local, then, they'd like to call it, it is universal actually it is local enough.

it is a local accomplishment.

教授とか学者は、ローカルな成果に満足している。

それは普通だと言っているようにだが、実際のところ、ローカルである。

Do they see a lot of things? I don't think there is a lot of things.

They are feeling that they see a lot of things. It is a delusion.

たくさんあるのか？ 見えているか？ そう思わない。

たくさんあるか？ 見ているつもりだが、それは思い違った。

Once you think you see a lot of thing, it is ^{delusion} delusion.

自分はたくさん見ている、と思ったら、それは思い違いなのである。

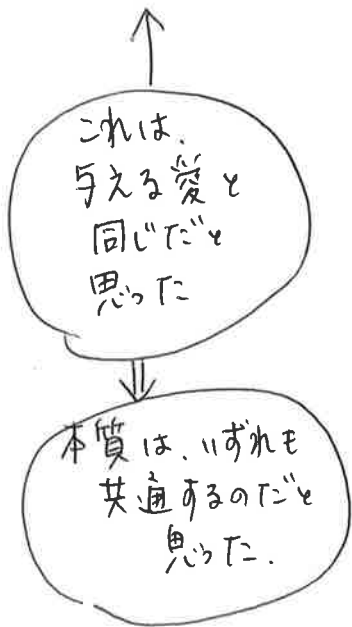
② まとめ

How to live well!

善く生きるためには。

Without expecting anything, you try to do your best to challenge.

期待なしで、最善をつくる。
(成果を求めず)



↳ ギリギリのところまで全力でやる!!

成果がある、なし、そういった損得勘定抜きで



全力でやる そのプロセスが 大事!!

楽じゃない。

汗をたくさん流す!

それを一つひとつ楽しんでいこう。

これが "rational journey" ♪

物事の本質を追求する

理性的な旅。

～ 心の旅 ～

先生と受講生 ⇒ 何か大きな差異があるのではない。

学問の面前では、先生も死ぬまで一生 生徒である。

だから日々、自分自身に問い続ける。

本質は何も追求できていない、という。

多くのことが分かっていない、という。

だから、暗闇をさまよいつづける。

さまよいつづながら、泳ぎ、飛び、進む!!

暗闇の中を歩く

… 勇気のいること。

でもそれによって 暗闇を進むこと。



これが、善く生きるための
感性をつくる

ロープルの成果を出すことが重要なわけではない。

たくさんを知った!

↳ と思つたら、それは 思い違い。

自分は trifle の存在ではない